

ひらぎの学童クラブ プリズム 支援内容

事業所名：ひらぎの学童クラブ プリズム

更新日：令和7年2月8日

| 5領域      |   | 支援内容  |  |
|----------|---|---|--|
| 本人支援     | 健康・生活   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣の定着、清潔、健康保持に向けた日々のルーティーン行動の実施</li> <li>・ 食育活動を通して様々な形態や味の食べ物を食べる経験を積むことができるよう、食事の楽しさを味わえるようなプログラムの実施</li> <li>・ 生活リズムを身につけるために保護者様と連携したプログラムの実施</li> <li>・ 生活スキルの向上をねらい、調理、洗濯、掃除等楽しみながら経験を積むことができるようなプログラムの実施</li> </ul> |  |
|          | 運動・感覚   | 粗大運動  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽しみながら四肢の使い方を習得することをねらい、全身を使った遊び（ボール遊び、サーキット遊び等）を経験できるようなプログラムの実施</li> </ul>                    |
|          |   | 微細運動  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細やかな動きを習得することができるよう、道具を利用したり、指先を使ったり（つまむ、とおす、はめる、ねじる等）することを体験できるようなプログラムの実施</li> </ul>          |
|          |   | 感覚統合  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お子様自身が、自分の苦手な感覚を知る・回避からスタートし、楽しみながら少しずつ触れ、苦手感を少しでも軽減できるように無理なく経験を積むことができるようなプログラムの実施</li> </ul> |
|          | 認知・行動   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日、時間、曜日の感覚、数的概念、色、図形、空間認識、四則計算等、日頃から意識的に生活の中に盛り込み、お子様の理解度に合わせたプログラムの実施</li> <li>・ 行動障害の予防、感情のコントロールに関するプログラムの実施</li> <li>・ 状況を想像したり、事後予測をしたりすることができるようになることをねらったプログラムの実施</li> </ul>  |  |
|          | 言語・コミュニケーション  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字の読み書き、正しい文章を作成する等の技術の習得のためのプログラムの実施</li> <li>・ 相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを伝えたりするプログラムの実施</li> <li>・ 状況にふさわしい言語選択の習得に向けた活動の実施</li> <li>・ 気持ちの良いコミュニケーションをとることができるような日々の積み重ね</li> </ul>  |  |
| 人間関係・社会性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団活動、学校生活等において必要な社会性について学ぶことができるようなプログラムの実施</li> <li>・ 社会のルールについて学ぶ経験を積むことができるようなプログラムの実施</li> <li>・ 人の気持ちに気づいたり、自己コントロールする力を身につけたりすることができるようなプログラムの実施</li> <li>・ 人と協力をする活動の中で、達成感を感じたり、自己肯定感を伸ばすことができたりするようなプログラムの実施</li> </ul> |   |  |

支援内容

家族支援

【アセスメント】 お子様、保護者様の想いを聴いたり、発達、特性に関する状況の確認を行ったりする。  
 【計画作成】 目標設定に関する相談、助言等を行う。  
 【実行】 計画に沿って目標達成に導く支援を行う。効果があった内容について報告し、ご家庭や学校などでも役立たせることができるようにする。  
 【モニタリング】 目標の達成度の確認、家庭、学校での状況の確認、計画の振り返り、見直しを行い、次期計画作成に役立たせる。  
 ※モニタリングは最低年2回実施する。お子様、保護者様の想いを大事にし、職員との信頼関係を深める機会とする。

- ・親子活動、保護者研修を実施し、保護者様同士の交流の場を提供したり、発達障害について理解を深める学びの場を提供したりする。
- ・必要があれば、兄弟児の面談を実施、悩みや困りごとがあれば地域資源についての情報の提供や、相談支援につなげる。親子活動時に兄弟の参加を可能とし、日頃から交流を持つようにする。

地域支援・  
地域連携

社会で生きていくことを最終目標とし、インクルージョンを目指す。  
 ◎地域を知り、地域に知ってもらうことを大切にする。

- ・積極的に地域活動に参加をする。また、地域に買い物に出かけたり、公共の施設や公共の乗り物を積極的に利用したりする。公園や神社などで地域の子どもたちと交流する機会を持つ。
- ・学童クラブとの交流を積極的に行い、同じ地域に住む同世代の子ども達が特別ではなく、「みんな同じ友達」意識を持つように支援を行う。
- ・公民館、病院、警察、消防、地域の見守り隊等、できるだけ多く社会資源とのつながりを持つ。

移行支援

- ・就学時に幼稚園、保育園などにお子様の様子を見学に行き、これまでの様子、園の想い等について聞き取りを行う。特に伸びている所、配慮すべきこと等は詳しく聞き、できるだけ同じような支援が提供できるようにする。
- ・事業所で習得した行動が学校や家庭などでもできるように、般化を目指した支援を行う。
- ・ライフステージの切り替えを見据えた、地域の生活の場や育ちの場との交流や情報の提供を行う。

職員の質の  
向上

- ・各種委員会（感染症対策、安全管理、虐待防止、身体拘束適正化、BCP,コンプライアンス検討）を作り、各年4回以上の研修を実施する
- ・障がい児成長支援協会に所属をし、ZOOMによる研修の実施
- ・防災に関する研修、訓練を年12回実施
- ・資格取得奨励の実施

主な行事

- ・主な活動…季節の行事、クッキング、SST、お出かけ、体を動かす活動、制作活動、学童クラブや保育園との交流事業、農作業体験、プール遊び
- ・大きな活動…マルシェの開催、親子活動（兄弟の参加可）、遠足
- ・保護者研修…年1～2回開催
- ・集団活動のほか、一人ひとりに合わせた個別課題（チャレンジタイム）を毎日実施